

理念

こども施策の基本理念に則り、子どもの最善の利益が優先考慮されるよう、施設が持つ知識・技能を地域社会に寄与していくものとする。

方針

- ・子どもの発達全般や障害及び行動の特性等を理解すると共に、発達や生活の連続性に配慮し、必要な発達支援を提供します。
- ・生活動作を始めとする基本的な体の使い方、遊びを通して、一人一人の発達を支援します。

基本情報

【開所日】月曜日から金曜日(祝祭日、年末年始除く)
【開所時間】8時30分から17時15分
【療育時間】8時30分から15時00分・延長支援あり(15時～17時)
【定員】25人 単独通園 ※医療的ケア応相談
【送迎】実施なし
【給食】提供あり

【1日の生活の流れ】

知的・精神	時間	肢体・医ケア	活動内容
受け入れ 朝の支度 自由遊び	8:30	受け入れ 朝の支度 自由遊び	健康状態の確認 自分の持ち物の整理 好きな遊びを通して物や人への興味を広げます。
朝の会 小集団活動 個別活動	9:50 10:10 10:30	朝の会 小集団活動 個別活動	絵本読み聞かせ・体操・歌・出席シール貼り 日ごと、月ごとでプログラムが変わります。 一人ひとりの発達や身体状況に合わせて個別の課題を実施します。
屋外活動	11:20	屋外活動	散歩や屋外遊戯場等、外での活動を行います。 夏季は水遊びをします。
昼食	12:00	昼食	自分で支度をして食べられる、楽しく食事をする支援を行います。
小集団活動 昼寝	12:30	昼寝	室内でそれぞれ好きな遊びに取り組みます。 休息が必要な子どもは昼寝をします。
帰りの支度 お迎え 延長 最終降所	14:30 15:00 17:00	帰りの支度 お迎え 延長 最終降所	自分の持ち物を片づけてお迎えを待ちます。 

主な行事

- 通所見学（随時）
親子分離でお子さんの普段の様子を見ていただきながら、支援内容やアプローチ方法についての説明をします。
- 保護者交流会（年2回）
簡単なゲームやおしゃべりなどをしながら、保護者同士が交流できる機会を提供します。
- 七夕会・クリスマス会（7月・12月）
季節行事を楽しめるイベントを行います。
- 近隣の保育園で遊ぼう（年2回）
近隣の保育園に親子で遊びに行きます。
- 親子通所（年2回）
親子で通所し、一緒に活動を体験します。
- 保護者勉強会（年6回）
当センターの専門職や外部講師を招いて保護者勉強会を行います。
- 退所（卒業）児交流会（年1回秋頃）
卒業した親子同志の交流、相談の場として退所後に開催します。

『地域支援・地域連携』

- ・子どもが利用する相談支援事業所や障害児通所事業所との情報共有及び連携を行います。
- ・医療機関との情報連携、調整を行います。

『家族支援』

- ＜通所見学＞支援の場面を通じた学びの機会の提供
- ＜勉強会＞発達状況や特性の理解に向けた相談援助
- ＜交流会＞保護者同士の交流の機会の提供
- ＜退所後支援＞センター退所後の相談援助

『移行支援』

- ・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達の評価、支援
- ・移行先との調整や支援内容の共有、支援方法の伝達、相談援助
- ・保育所等との交流機会の確保

『職員の資質向上』

- ・支援の質の向上のため、外部機関（岡崎大学）からのコンサルテーション実施
- ・所内研修の実施（虐待防止、安全計画、ケース検討等）
- ・所外研修の積極的な参加

5領域	支援内容
健康・生活	・小さなサインでも心身の異常に気付けるよう、朝、活動時、お帰りの時間に健康状態の確認を行います。 ・食事、排泄、睡眠、着脱、持ち物の管理など生活に必要な基本動作を習得できるよう、生活の場における環境の工夫を行いながら、発達段階に合わせて個別に支援します。
運動・感覚	【粗大運動】「歩く」「跳ぶ」「登る」「投げる」など全身を大きく使った動作を取り入れたプログラムを行います。 【微細運動】「つまむ」「ひっぱる」「ひねる」「はめる」「貼る」「塗る」など手指の細かな動作を取り入れたプログラムを行います。 ・姿勢の保持や各種動作が困難な場合は、「姿勢を支える補助椅子」「感覚クッション」など様々な補助道具を活用して支援します。 ・過敏や鈍麻などの感覚の特性を踏まえ、環境調整を行いながら個別アプローチを行います。
認知・行動	・視覚・聴覚・触覚などの感覚を活用して、感覚から情報を正しく収集できるよう支援します。 ・身体部位を意識する体操や色や形、大小など概念を行動の手掛かりにできるような内容を活動プログラムに取り入れて行います。 ・感覚や認知の偏りやコミュニケーションの困難さからくる「試し」「回避」「注目」などの行動障害の予防や状況にあった適切な行動ができるよう支援を行います。
言語・コミュニケーション	・運動や制作活動の中で本人が感じた感覚や気持ちを言語化したり、歌や絵本の読み聞かせで様々な言葉に触れる機会を持つことで具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけ、自発的な要求を引き出す支援を行います。 ・言葉や文字、表情、身振り、絵カード等を用いて、相手の意図を理解したり、自分なりの方法で気持ちが表現できるよう支援します。 ・相手と同じものに注意を向ける、自分が関心を持っていることを相手に共有してもらう共同注意の獲得を支援します。
人間関係・社会性	・自分の感情が崩れたり、不安になった時に、身近な大人に助けを求めたり、自分自身で感情の折り合いをつけることができるよう支援するとともに、環境や人に対して安心感や信頼感を育む支援を行います。 ・体操や手遊び等の活動を通して人の動きを模倣する経験を積み、相手の意図を理解し合わせようとする社会性の芽生えを支援します。 ・「ままごと」「お店屋さんごっこ」などのごっこ遊びや「しっぽ取り」「かくれんぼ」などのルールのある遊びを通して、社会性の発達を支援します。